

北陸最大のミズバショウ自生地を調査して

中江 実

小松市丸山町横谷地区に広がるミズバショウ自生地は、通称「横谷のミズバショウ」として広く県内外に知られています。現在は国有林地であり、県立自然公園の一画であり、登山道も又、湿原廻りの遊歩道も整備されていて、毎年4月末から5月の連休には大変多くのハイカーが、ミズバショウの清楚なたたずまいと、その広がり求めて訪れます。

横谷ミズバショウ自生地の調査は、小松市自然保護協会として、昭和47年5月に第一回目の調査入山をして以来、30年間調査や手入れに自然保護協会の中で携わって来た私として、小松市指定の天然記念物にしたいとの想いと、周りの会員からの声も高まって来たので、平成15年度の指定に向けて春から調査を開始しました。調査対象は、湿原の代表的植物であるミズバショウ・レンゲツツジ・トキソウ・エゾリンドウの4種を秋までに調査して、文化課に提出することとし、第一回目のミズバショウとレンゲツツジの調査を5月18日(日)、ミズバショウの花も終わりに近づいた頃、会員7名と一般参加者3名の10名にて、一年間の湿原調査をスタートしました。

湿原の概要

標高870m、長さ354.2m、最大幅58m、流出水路の長さ150m、平均幅5m、全体面積13,040㎡、その内、市が森林管理署より借りている面積6,640㎡で、図のイ～ロの間で、その内湿原部分は5,120㎡、林地遊歩道部分1,520㎡、下流の流出水路は、長さ150mで平均幅5mで面積750㎡と上流部長さ113m、最大幅58m、面積5,650㎡は借りていない為に手入れできず、雑木が繁り、陸地化が進みミズバショウも減少しているし、トキソウ・エゾリンドウ・レンゲツツジは著しく減少している。

この場所は約40年程前まで、出作りの人が水田として利用していた所で、その当時から水田の廻りや水路にはミズバショウがあったと聞いています。30年前に調査に入った時には樹木も小さく、見通しも良かったのですが、年々樹木が大きくなり見通しが悪くなって、特に周辺部分は日陰になって、ミズバショウの減少が感じられていたそんな時、昭和60年に一気に登山道と湿原周遊歩道が整備されて、湿原廻りの樹木も伐採されて、大変見通しのよい湿原に変化しました。

その後18年、各方面から横谷は良くない、木が繁り過ぎてミズバショウがよく見えないうの苦情が多くあり、市と協議の結果、市には手入れする費用が無いとのことで、双方でボランティアを募って手入れ作業をすることとなり、昨年は2回実施して、全体の約60%を実施することができて、今年春のミズバショウ・レンゲツツジ・初夏のトキソウ・秋のエゾリンドウと、大変素晴らしい湿原を回復することができ、今年の調査には大変力が入りましたし、今年も1回共同手入れ作業を実施して、全体の約90%を終了することができましたので、来年の湿原性植物観察に最適と思えます。昨年からの苦勞が実り、今年文化の日に「小松市天然記念物」の認定証を受けることができました。管理団体は小松市自然保護協会ですが、市と共同管理することで話しを決めております。小松市在住の解説員

の多くの方に加わっていただいていますので、今後の指導監視にご協力いただきたいと思います。

ミズバショウ本数調査、15年5月18日参加者10名にて実施。図面A・B・C・D・Eについては10m×10m、100㎡内の本数を調査し、5箇所平均に湿原面積を掛けて本数を出し、Fについては特別密集地として1m×1mの1㎡内の本数を調査し、それに該当する20㎡を掛けて本数を出しました。流出水路G、上流部H、湿原外Iについては、完全読取調査としました。但し単葉体については間違いやすいので数えていません。

イ．A 1,912 + B 2,178 + C 3,164 + D 1,977 + E 3,016
= 12,247 ÷ 5 = 2,449 × 5,100㎡ = 124,919本

ロ．F 100 × 1㎡ = 100 × 20㎡ = 2,000本

ハ．G 4,319本

ニ．H 6,422本

ホ．I 543本

湿原全体計 138,203本

レンゲツツジ株数調査 15年5月18日、参加者十名にて実施

ミズバショウと同時調査としましたが、まだ花が無く確実性が無いと思い、6月1日花の時に私が登り調査、レンゲツツジは根本より数本の幹が出て株状になっているので、株数調査としました。

イ．A・F地区 168株

ロ．B・E地区 89株

ハ．C地区 21株

ニ．D地区 2株

ホ．G地区 0

ヘ．H地区 137株

ト．I地区 0

湿原全体合計 417株

トキソウ本数調査 15年6月22日、参加者8名にて実施

トキソウは1本1本の物で、草地の中に花だけを表面に出して咲くので数えにくく、花の盛りを見て実施。花茎の付かない物が多いことが分かり、A地区にて花茎の多い所と少ない所の2カ所で、1㎡の中の花茎本数と無花茎本数の調査を実施。

花茎本数の多い所 花茎11本、無花茎179本で花茎1本に対し、16.2本の無花茎があった。

花茎本数の少ない所 花茎3本、無花茎48本で花茎1本に対して、16.0本の無花茎があった。

以上の結果から、この湿原では花茎の多少に係わらず、無花茎が同率で平均値の16.1を掛けて全体本数を出しました。



- イ. A・F地区 3分割 $68 + 196 + 188 = 452$ 本
- ロ. B・E地区 4分割 $214 + 174 + 4 + 282 = 674$ 本
- ハ. C地区 4分割 $65 + 11 + 34 + 39 = 149$ 本
- ニ. D地区 2分割 $158 + 94 = 252$ 本
- ホ. H地区 3分割 $85 + 0 + 21 = 106$ 本
- ヘ. G地区は0

湿原全体合計花茎本数 1,633本

花茎本数 $1,633 \times$ 無花茎平均値 $16.1 = 26,291$ 本

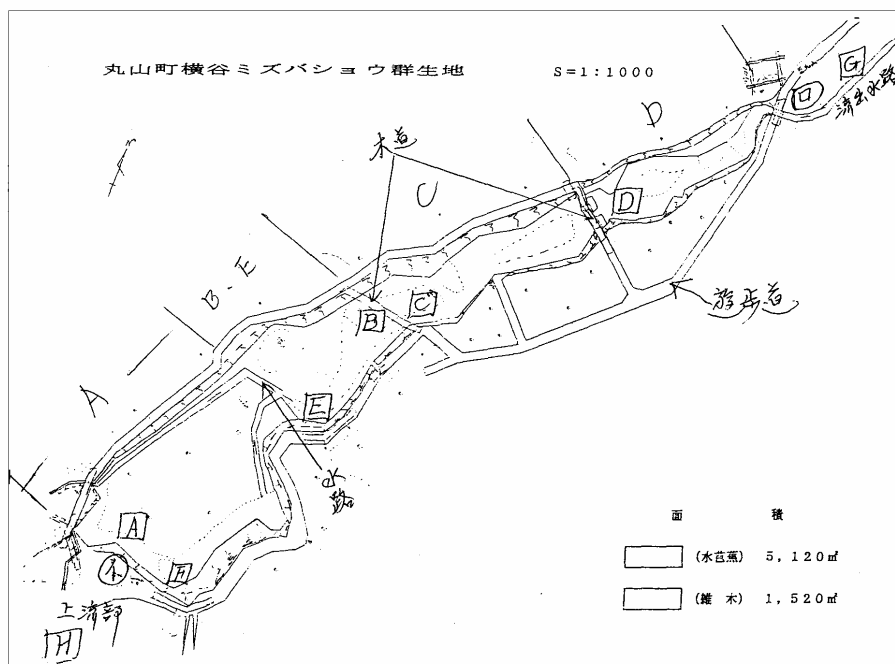
エゾリンドウ調査 15年9月28日、参加者9名にて実施

エゾリンドウは株立となるので、調べてみると1本立の物から最大6本立の株まであり、密集地では株元の確認が草の密集した中では難しく、花茎1本ずつの調査としました。

- イ. A・F地区 1,830本
- ロ. B・E地区 918本
- ハ. C地区 545本
- ニ. D地区 157本
- ホ. H地区 254本
- ヘ. I地区 247本

湿原全体花茎本数 3,951本

以上が、天然記念物指定に向けて1年間調査を実施し、報告して来ましたが、その中で感じたことは、昨年手入れして明るくなった所では、トキソウ・エゾリンドウの花茎が多く見られ、ハイイヌツゲが多く繁殖した所では、それらの花茎は殆んど見られなく、樹木に被われてしまった所ではトキソウ



は皆無であり、エゾリンドウは小株で小数確認されたが、これ以上樹木が繁殖すれば消滅せざるを得ないと思います。今後も年1回の手入れを市と共同で実施をし、貴重な湿原を守って行かなければならないと心しています。